

下野新聞

しもつけ
発行所 宇都宮市昭和1丁目8番11号
〒320-8686
下野新聞社
電話 028-625-1111
郵便振替口座 00180-1-623433
©下野新聞社2012
読者室 028-625-1179
(受付 月～金・午前10時～午後6時)
編集局 028-625-1121
販売部 028-625-1120(販売)
事業局 028-625-1134(事業・教育)
営業局 028-625-1133(広告)
下野新聞社ホームページ
http://www.shimotsuke.co.jp/

号外

下野新聞1週間無料お試しキャンペーン実施中!
試験・購読のお申し込みは
0120-810081



矢板市長に遠藤氏

桜井氏抑え3選

市を二分、1921票差

投票率63.94%



3選を果たし、支持者と笑顔で万歳する遠藤氏(中央) 8日午後10時48分、矢板市本町の選挙事務所、杉浦崇仁撮影

選管確定=8日午後10時15分

当 9,910 遠藤	忠 71 無現③
7,989 桜井	恵二 55 無新

(敬称略、○数字は当選回数)

「みんな連勝」3党で阻止

解説 「変革」を訴えた桜井氏より、2期8年間の実績と医療や教育を充実させ「子育て環境日本一を目指す」などの公約を掲げた遠藤市政の「継続」を市民は選択した。

自民党を中心とする遠藤氏陣営は今回の市長選で、昨年の県議選で自民党の元県議会議長の青木克明氏がみんなの党の斎藤淳一郎氏に敗れた経験を活かして、後援会組織の強化に取り組み、市内全68行政区に各支部を設立し盤石な態勢を築いた。さらに、民主、公明

の両党から推薦を受け、3党の国会議員や県議らが駆けつけ、街頭演説などを行い、みんなの党の「連勝」を阻止した。一市長選にとどまらず、次期衆院選を視野に入れた政党同士の激突となった。

市民や市議会を二分する結果となり、選挙戦のしこりを残さないよう早期に融和を図ることが今後の市政運営にとって重要な課題となる。

総仕上げと位置付ける3期目は、公約に掲げた18歳までの医療費無料化や小中学校給食の無料化などに取

り進むことになるが、公約実現には財源が必要だ。経済が低迷する中、財政再建と両立できるかが鍵となる。

さくら市にある塩谷広域行政組合の可燃ごみ処理施設の使用期限が迫る中で矢板市内に建設予定されている次期施設の建設問題や、場外車券場問題、放射能除染、スマートインター設置など課題は山積している。

リーダーシップを発揮し、市役所が一丸となったスピリット感ある市政運営が求められる。

(山口達也)

任期満了に伴う矢板市長選は8日投票され、現職の遠藤忠氏(71)と自民、民主、公明推薦の新人でゴルフ練習場経営の桜井恵二氏(55)とみんな推薦の1921票差で破り3選を果たした。

2000年以来12年ぶりの選挙戦は次期衆院選をにらみ、政党同士の戦いの様相もみせて激しい攻防となったが、「子育て環境日本一を目指す」として18歳まで

当日の有権者数は2万8237人、投票率は63.94%で、12年前の65.51%を1.57ポイント下回った。

遠藤氏は、連続無投票当選で今回が初の選挙戦となったが、「市民党」をうたい、元県議会議長の青木克明氏の後援会や自民党のほか、民主党と公明党の支援を受け盤石の態勢で臨んだ。3党の国会議員や県議などが駆けつけ街頭演説会を行い、支持を拡大し勝利を呼び込んだ。

桜井氏陣営は、みんなの党の渡辺喜美代表が連日のように地元入りし全面支援。同党の国会議員や県議

午後10時20分ごろ、同市本町の選挙事務所に当選の一報が入ると、遠藤氏は支持者に手を振って「温かい支援で当選することができました。皆さんの思いや願いを實行して、住んで良かった矢板市をつくっていききたい」と述べた。

桜井氏は午後10時15分ごろ、同市鹿島町の選挙事務所まで支持者の前で「最後の最後まで支えていただいたことができず申し訳ありませんでした」と敗戦の弁を述べた。

渡辺代表は「矢板を変えようという皆さんの気持ちは、大変なインパクトを与えたと思う」と述べた。